

# 黒部川上り廊下く沢旅の五日間

山行実施日（八月五日～十日）

## 高嶺一

八月五日

浦和駅で鈴K車に乗せてもらい、一路出発地点の扇沢を目指す。日付が変わった二時過ぎに到着。景気づけに一杯飲んでからシユラフカバーに潜り込む。

八月六日 晴れ

ダムまでのトロリーバス、この期間は始発が七時三〇分だった。そうすると平の渡船の十時は無理で十二時になってしまう。ゆっくり行けばいいかと思ったが、黒部湖の水平道はちつとも水平でなくアップダウンが結構ある。荷物が重いせいもあり（私が二十八キロ、鈴Kさんが二十三キ



ロ）結局船が出る二十分位前にやっと平の小屋に着くことができた。小屋番兼船頭の方に聞くと、水量が多くて引き返してきたパーティーもいるという。ただ最近は目立つて

湖の水面が下がっているとの

内一パーティーが上の黒ビンガを越えられず戻ってきた

とのこと。この時期はまだまだ水量が多くて遡行困難な様

だ。入渓の支度を整えてから東沢沿いに本流に達する。ち

ょつと河原を歩いたら熊ノ沢が左岸から入り込んでくる。

反対側の河原が快適そうだったのでそこを今晚の宿泊地とする。我々は熊ノ沢で水を汲んでから徒渉したのだが、右岸にも支流が流れ込んでい

ことに大いに期待する。乗船は我々の他には奥黒部ヒュッテに泊まるという一名のみで計三名だった。

船を下り、奥黒部ヒュッテ

までの道も山腹が崩壊しているところを梯子段で上下する

ものだから結構なアルバイトだ。ようやく奥黒部ヒュッテ着。ここ的小屋番の方にお話を再度聞くと、二パーティー

海藻サラダ、ヒジキ煮、豚肉味噌炒め、〆の冷たい蕎麦を

食してテント内に潜り込む。

八月七日 晴れ

稜線上での宿泊も考えてテ

ントとしたため、全く寒さを感じることなくよく眠れた。

準備に手間取り八時頃発。

徒渉を繰り返していくと下の黒ビンガが圧倒的な岩塊となつて迫つてくる。



た。

しばらく雨が降っていなかつたようであつという間に木に火が着き、シチュエーションは万全だ。二人とも竿を

出したのだが残念ながら当たりはなし。本日は私が食当。

ヨンは万全だ。二人とも竿を

ここでまず、右岸から左岸に流れのきつい流心を越えて泳ぎ渡らないといけない場所が出てきた。鈴Kさんは辛くも成功したが、私は流されてしまいお助け紐を出してもらつて何とか渡りきる。



この先、右岸に渡つて少し

高巻き既存支点があつたので懸垂下降で川床に戻る。その際に鈴Kさんはせっかく持ってきていた菅笠を流れに落としてしまった。

とにもかくにも下の黒ビンガ突破である。これで遡行の目が出てきた。

十一時過ぎに口元のタル沢  
出合着。日向だったので、冷  
え切つた体を温め行動食を取  
つて少し長い休憩。

Kさんが空身でロープを引張り登つていった。三十mザイルはすぐに一杯になり、もう一本のザイルを継ぎ足す。ルート工作に時間が係りなかなか戻つてこなかつたがようやく降りてきた。やはり最初の草付き垂直壁がルートのこと。トップロープ状態で鉈Kさんがまず登り、その後に私が確保して貰つて上がる。

その後再び入水する。  
ところがこれが難関だった。右岸沿いに水線突破を図ったが、水流が強い割に岩壁があるつるで手がかりが全くないので足が進まない。諦めて少し戻り、左岸の高巻きを試みる。既存のロープが伸びているが途中の草付き垂直壁で切れている。実はここが高巻きルートだったのだが、まさかここでは無いだろうと思い、

く川床に戻った。  
この先も左岸から右岸に流れを飛び越えて渡る難所があつた。



私が空身でザイルを引きながら流心を飛び越え、その後に私のザックを引っ張つてから鈴Kさんを引っ張り上げる。時刻は既に十七時になろうとしていた。少し先の右岸高台が砂地であり、かつ流木も大量にあつたので迷わずそこを宿泊場所にする。後日地形図で確認したところ、北緯36.29.33' 東経137.35.47の地点だった。食当の鈴Kさんが作った海藻サラダ、水餃子、ポトフを食べて爆睡する。

八月八日 晴れ

本日は少し早く、七時頃に出発。五十分くらい歩くと「黒五」と言っていた堰き止め湖だったあと河原に達する。黒部川にもこんな所があつたのかという河原歩きをしたのちまたもゴルジュ帯突入。上の黒ビンガである。

徒渉を繰り返して金作谷出合着。ここから先も何カ所か流心を渡つての泳ぎがあつた。



綺麗な滝が二つほど続けて左岸から流れ込む。黒部川で最も良いロケーションかもしれない。



綺麗な滝を掛ける赤牛沢出合を過ぎてしばらくすると岩苔小谷出合(立石)。時刻はまだ十五時前で早いが、積乱雲が出ていることもありここで行動中止とする。ここも良いテント場だったが、流木はちょっと少なかつた。一休みしてからルアー竿でトライしてみたら何とか九尺程度のサイズを二尾ゲット。ありがたい、自然の恵みだ。



鈴Kさん製作のゴーヤチヤンブルが美味しい。談笑しつつ焚き火と星を見ながらテントに入つて就寝。

八月九日 晴れ

当初の計画では三俣山荘まで行つてから廃道と化している伊藤新道を下る予定だったが、どうもこの分では無理だ。

どうしようかあれこれ考える。

結局、今日は雲の平まで行き、明日は天気も良さそうなので裏銀座縦走路を歩くこととする。結果論ではあるが、赤木沢を遡行して薬師沢の稜線直下でビバークしてから折立に下つた方が沢屋らしかつたかもしれない。

五時過ぎに起床し、焼き枯らした岩魚を食す。美味である。鈴Kさん担当のご飯と味噌汁、大豆肉と茄子の炒め物も美味しい。



七時過ぎから動き出し、朝イチから徒渉を何回か繰り返して進むと立石奇岩だ。要するに岩盤の裏側が沢水で浸食され、前方部分が筒状に削り残されたものらしいしい。

さしもの上ノ廊下も大分流れが穩やかになってきた、と思いつや E、D、C、B、A の平への急坂をよじ登ること三時間弱で雲の平山荘着、夕立を小屋で雨宿りしてからキャンプ場に向い、テント村の中に何とかテントを張り小屋で買ったビールで乾杯した。下降を強いられる。



ここを過ぎたら本当に流れが緩くなり、徒渉も楽になつた。

四時に出発、祖父岳、水晶小屋、野口五郎岳、三ツ岳、烏帽子小屋と裏銀座縦走路を歩行する。景色は絶景だが、感動は今一つだ。そう、耳元をかすめる渺々たる風切音が私にはややもすると黒部川の轟々たる水音に聞こえてしまう。やはり上ノ廊下は圧巻であった。

急坂のブナ立尾根を下り、高瀬ダムに着いたのは十六時と行動時間十二時間、ここで行動食（朝炊いたご飯をおにぎりに握つたもの）を食す。

ここで沢とはお別れだ。雲の平への急坂をよじ登ること三時間弱で雲の平山荘着、夕立を小屋で雨宿りしてからキャンプ場に向い、テント村の中に何とかテントを張り小屋で買ったビールで乾杯した。

八月十日 晴れ

四時に出発、祖父岳、水晶小屋、野口五郎岳、三ツ岳、烏帽子小屋と裏銀座縦走路を歩行する。景色は絶景だが、感動は今一つだ。そう、耳元をかすめる渺々たる風切音が私にはややもすると黒部川の轟々たる水音に聞こえてしまう。やはり上ノ廊下は圧巻であつた。

急坂のブナ立尾根を下り、高瀬ダムに着いたのは十六時と行動時間十二時間、ここで行動食（朝炊いたご飯をおにぎりに握つたもの）を食す。

# タクの木漂流大冒険

山行実施日（六月五日～十日）

録  
K

8/6(木)6:50BP-7:30 黒部ダム～12:00 平ノ渡～15:00 奥黒部ヒュッテ～  
16:30 熊ノ沢出合い付近 BP  
8/7(金)8:00BP～9:40s 下ノ黒ビンガ～11:16 口元ノタル沢出合～左岸懸垂・空  
身飛び込み等～17:20 廊下沢出合い付近 BP  
8/8(土)7:13BP～9:05 上ノ黒ビンガ～10:17 金作谷出合い～15:00 岩苔小谷BP  
8/9(日)7:10BP～8:04 立石奇岩～12:03-12:30 薬師沢小屋～15:30 雲の平BP  
8/10(月)3:52BP～6:38 水晶小屋～9:50 野口五郎岳～13:03 烏帽子小屋～ブナ  
立尾根～16:08 高瀬ダム～扇沢一コミュニティーセンターの湯～帰埼

パルコ9Fで8月沢ネットの打ち合わせを行い、そのまま大町に向かった。大型台風は大陸に去つていくようで、天気の心配もなく、思いっきり太陽が照り付けてくれるようだ。車の運転を途中でH高さんと交代しながら扇沢につく。軒下で仮眠をして早朝1番のバスを待った。

8月6日（木）昨日、胃検診でバリュームを飲んでいたのでお腹の調子が怪しかったのだが、どうやら落ち着いてくれたようだ。チケットを買いう行列に並びながらザックの重さを量つてみると、ガチャ類を除いて23キロだった。

パルコ9Fで8月沢ネットの打ち合わせを行い、そのまま大町に向かった。大型台風は大陸に去つていくようで、天気の心配もなく、思いっきり太陽が照り付けてくれるようだ。車の運転を途中でH高さんと交代しながら扇沢につく。軒下で仮眠をして早朝1番のバスを待った。

H高さんはなんと28キロ。これで歩けるのかと心配になるが、一度膝にザックを載せて、素早く体を回して腕を通して背中に乗せた。自分の頭よりもザックがはるかに高くなつてしまふ。先頭のバスに乗り込むと静かにバスはトンネルの中に入つていった。トンネルの中は涼しくて気持ちがよい。目の前には黒四ダムが広がる所と、一緒に乗つっていたお客様も三々五々に散つていく。周りに沢屋やはいなかとなにげに目を配るが、我々だけのように目を配るが、我々だけのようだ。対岸を平ノ渡に向かつて淡々と歩く。重いザックが肩や腰に食い込むが、これから始まる遡行に期待が膨らまさせて汗を流す。どうにか12時渡しに乗ることができた。渡しの人聞くと、上ノ廊下に入るのは3ペーティー目と

のこと。8月2日に入つたメンバーは敗退だつとか。このところ雨はなく、湖面の水位も下がつてきているから、可能性はあるようだ。遊覧ボートは好きなように岸につけて遊んでいるのをみると羨ましい。先頭のバスはトンネルの中に入つていった。トンネルの中は涼しくて気持ちがよい。目の前には黒四ダムが広がる所と、一緒に乗つていたお客様も三々五々に散つていく。周りに沢屋やはいなかとなにげに目を配るが、我々だけのように目を配るが、我々だけのようだ。対岸を平ノ渡に向かつて淡々と歩く。重いザックが肩や腰に食い込むが、これから始まる遡行に期待が膨らまさせて汗を流す。どうにか12時渡しに乗ることができた。渡しの人聞くと、上ノ廊下に入るのは3ペーティー目と

はできなかつた。たき火は点火すればあつという間に炎を上げ、天を焦がした。いよいよ黒部の源流を堪能できる。

重いザックで腰骨が擦れたので、フィルムシートを貼つた。重いザックに苦しめられていたことをすっかり忘れていた。

夜空には、白鳥座とこと座、北斗七星が現れ、天の川が映し出され、北極星も確認でき

た。

8月7日（金）広い河原を前にゆつたりした気持ちでいると、出発が8時になつてしまつた。どこまでも河原が続くような気がしながら、平坦に見える瀬を渡るにも水の勢いがありスクランムをし、また、棒で体重を前に倒しながら後ろに持つていかれないようにして横断していく。川幅が狭くなり、下ノ黒ビンガのゴル



もう少し軽くしておけば、微妙なヘツリで行けたかもしれないね。

0mの懸垂だつた。ザックが

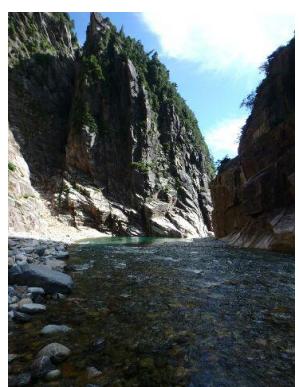
左右の縁を攻めてみたが解決できず、左岸を高巻く。ルートの設定に手間取り、半日近くかかるてしまい、最後は3

ジュに入つていく。水量に圧倒されて右岸を巻いて越える。なかなか手ごわい。雪渓の詰まつた口元ノタル沢を過ぎると、谷はかなり絞り込まれ、

ゴルジュを抜け、砂地の幕場にたどり着けた。このときすでに5時を過ぎていており、

急いでたき火をして体を温めた。

さて、もう日が暮れかけていたので、ルート工作の猶予はない、その後は、ぎりぎりの飛び込み渡渉をしてようやく飛び込み渡渉をしてようやく



8月8日（土）水量の多さと両脇に沢には雪渓が詰まり水温が低い。手ごたえを感じながら、この先どのくらいまで進めるのか心配になりながら、太陽に背中を押されて前に進んだ。7時過ぎには出発。河原から青空の下に稜線が覗き始めた。陽の光に照らされて優しく上ノ黒ビンガの壁が迎えてくれた。左岸から滝が天から落ちて輝いている。金作谷は雪渓の廊下なつてと上

8月8日（土）水量の多さと両脇に沢には雪渓が詰まり水温が低い。手ごたえを感じながら、この先どのくらいまで進めるのか心配になりながら、太陽に背中を押されて前に進んだ。7時過ぎには出発。

河原から青空の下に稜線が覗き始めた。陽の光に照らされて優しく上ノ黒ビンガの壁が迎えてくれた。左岸から滝が天から落ちて輝いている。金作谷は雪渓の廊下なつてと上

泳ぎ、渡渉、ヘツリと楽しみながら開放的な黒部川を遡っていく。どこまでも澄んだコバルトグリーンが心を癒してくれる。岩苔小谷に着いたのは3時ごろだが、雷雲が観いており、この先のゴルジユを越えるまで我慢してくれること心配だったでの、ちょっと早かつたが幕場とした。H高さんは竿を出しにいき、私はさすがに、3日目の疲れがたまつてしまつたので、のんびり薪を集めながら休んでいた。また、食担を1日交代にしていたが、私の疲れを察してく

部まで繋がつていた。

れて、2日目に続き3日目を私の食材してくれたので、ゴーヤチャンプルの準備をした。しばらくすると、27, 8cm食べごろのイワナ2尾

の袋に入れてH高さんが帰ってきた。ここで、イワナ食べなくてはどこで食べるんだと言いたいところだ。自分で釣れなくとも、うれしいものである。さっそく、流木の端で櫛を作り塩焼きにした。この日も雨はなく、温かく寝ることができた。

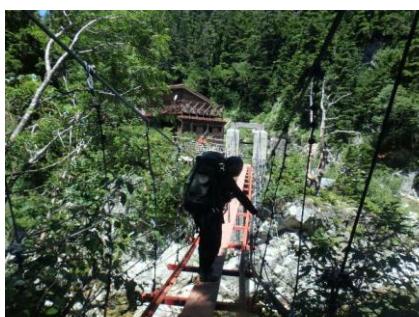


8月9日（日）H高さんは私の疲れ具合と、下山コースをにらんでいろいろ案を練つてくれた。結局、雲ノ平から薬師小屋を経由して裏銀座を通り、高瀬ダムに降りることにした。私は、北アルプスをほとんど歩いたことはないのですが、どこを通つても新鮮であ

る。雲ノ平や裏銀座、一度は通つてみたいこところでもあります。焼き枯らしたイワナを味わい最高の朝食をいただい

た。

7時過ぎに出発。谷は狭くなつてきているので、太陽の日差しはまだ差し込んできていなかつたが、上を見上げると、稜線はまぶしく光つている。



8月10日（月）最後の下山は長い。朝4時に出発し、祖父岳で日の出を見る。三俣蓮華岳がどっしりと構えていた。北アルプス360度を見渡せる大パノラマである。「雲ノ平」の名前通りであり、すばらしい。H高さんがいろいろ説明してくれ、観光旅行の

ようで飽きなかつた。小屋に着くと、初めての雨となつた。軒でしばらくやり過ごし、今回の中行では初めてのアルコール（ビール）を買った。少しすると雨が上がり幕場に向かつた。すでに、よい場所はなかつたが、他のテントの間に石を移動させて平らにすることができた。人が多いので、蚊がうるさかつたが、水が豊富でトイレもあり、快適だつたと言える。

ろ沢に降りる梯子が見え、高天原への登山と合流した。そろそろ遡行も終了になるが、心に沁みるなにかがあつた。

薬師沢小屋までゆつくり楽しんで沢を行く。12時、薬師小屋のつり橋を渡るときは心に沁みるなにかがあつた。軒でしばらくやり過ごし、今回の中行では初めてのアルコール（ビール）を買った。少しすると雨が上がり幕場に向かつた。すでに、よい場所はなかつたが、他のテントの間に石を移動させて平らにすることができた。人が多いので、蚊がうるさかつたが、水が豊富でトイレもあり、快適だつたと言える。

野口五郎岳周辺はコマクサが

ガレの中で点々と健気に咲いていた。登山道を小石で並べ、踏み込まないようにしていて、いずれはコマクサのお花畠になるかもしね。鳥帽子小屋で一休みすると、高瀬ダムまでは急峻な下りが続いていた階段状になつていて、膝がやられそうだつた。花を求めて？一人で登つてくる女人もあり驚かされる。高瀬ダムに着くと、タクシーが迎えにきてくれた。他の人の迎えだったようだが、入れ替わり立ち代わりと登山者が下山して来るので、連絡せずとも乗れる状況のようだ。まあ、この時期だからだろう。扇沢に着き、風呂に向かうと、途中にコミュニティーセンターの温泉が400円ということで飛び込む。風呂から出てみると、豪雨が通過しているところだつた。今回の天気に恵まれ、

感謝、感謝である。同行していただいたH高さん、大変お世話になりました。羽竜さんは体調により参加でませんでしたが、近いうちにリベンジしましよう。



焚き火とビリー缶



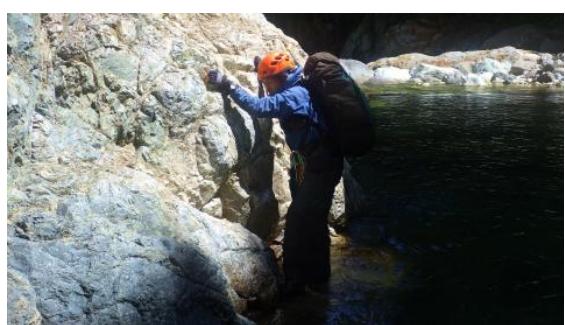
コバルトブルーの水面



菅笠が決まっている鈴木さん



鷲羽岳(左)とワリモ岳



へつり